

受け継ぎ次へ

羽島市教育委員会 教育委員 今枝 甫

郷土羽島市は、木曾・長良の二大川に囲まれた地域で、先人たちは長く水との闘いの中で生きてきた。しかしこの肥沃な地は豊かな恵みをもたらし、ここに生きた人たちはまた、すばらしい文化をつくりあげてきた。

歴史上名高く、人気もあり、しばしばドラマ化されてきた三英傑（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）の足跡が残る地でもある。秋の銀杏の黄葉が美しい小熊町にある「小熊山一乗寺」には、空海自らが彫った延命地藏菩薩があった。織田信長は岐阜在城の時、この菩薩の靈威のあることを知り、岐阜へ移した。天正二年（1574）三月初めのある夜、この菩薩が枕頭に立ち、元の地に帰りたいと告げた。帰すことを惜しんだ信長は、尊像を留めその地名を小熊と改めた。今も鶯谷高校近くにその地名を残している。

豊臣秀吉の三大水攻めの一つに、竹ヶ鼻城の水攻めがある。本陣を太閤山に置き、十万の兵で約3 kmの長堤を築いて攻め落とした。今もその地には「史蹟 間島太閤山」や「史跡 一夜堤の跡」の石碑が建っている。

桑原町大須にある真福寺（大須観音）は、かつて能信という僧が各地を遊歴して、珍しい書籍を書写した。これが大須文庫の基である。時代は移り、読書好きな徳川家康は、真福寺が由緒ある寺であり、貴重な蔵経があることを知って、元和元年（1615）家康自ら僧天海とともに真福寺に来て蔵経を見た。洪水からこれら古文書を守るためにも、名古屋城下の日置村に真福寺を移し、地名も大須に変更した。これが現在名古屋にある大須観音（真福寺）である。

今を生きる羽島市内の児童や生徒たちも、それぞれの小学校区や中学校区で地域の文化財や記念物について、「総合的な学習の時間」等で学んでいる。自分たちの住む郷土をあの歴史上の人物たちも歩いていたのか。三英傑も見た同じ景色を自分たちも目にしていると思う時、郷土に対して誇りとか愛着が芽生えてこればよいと思っている。

私は教育委員として小・中学校の学校訪問や卒業式に出席する機会がある。団塊の世代の私とは比較にならないが、児童・生徒数が減少していくのを感じている。先日6年後の児童・生徒数の推移を今年度と対比した表を目にした。一段と減少が進むことは明白である。こうした状況の中、羽島市では令和4年12月から「新しい時代の学校構想検討委員会」を立ち上げ、多様化する時代における学校のあり方、教育課題、教育活動、学校運営、学校配置等に関する審議が行われてきており、今秋に答申が出される予定である。

次に受け継いで行く人たちをつくっていくのは、私たち高齢者を含めた大人の責務でもある。地域のコミュニティが消滅することなく、世代間相互で理解して支え合いながら、役割分担を果たし、機能させていくことが求められている時代だと思っている。

花のまち砺波を訪問しました

大野町教育委員会 教育委員 常富みどり

今年の4月25日・26日に、フラワー都市交流連絡協議会・交流会参加者の一人として、富山県砺波市を訪問しました。この協議会は、シンボル花をテーマとしたまちづくりを目指す都市（フラワー都市）の相互交流を通して、加盟都市の産業、経済と教育文化の振興など、魅力ある地域づくりが目的です。全国に9つの加盟都市があります。砺波市のシンボル花はもちろんチューリップです。そして、大野町のシンボル花は「ばら」です。

この交流会の参加者の中には、10年以上参加というベテランの方もいらっしゃいますが、私は初めての参加です。広場内のチューリップの品種や300万本という数にも圧倒されましたが、そのチューリップと同様に素晴らしい素敵だと思ったのは、おもてなしをしてくださった市民のみなさん、そして、総会やフラワーパーティーでの子ども達です。総会は、こども園の園児達のダンスで始まりました。園児達は20数名。おそろいのコスチュームでのダンスや市役所職員で結成しているバンドとのコラボがとても印象的でした。伸び伸びと楽しくダンスしている子、自分の動きが少し不安で、隣の子の動きを横目で見ながら踊っている子、一人として同じ姿ではなかったと思いますが、それでいいのだなと思いました。これまで練習してきたことを精一杯出し切ろうとしている姿がとても可愛いと思いました。園児の保護者は、自分の子どもしか目に入らなかったのでは？と思いますし、こども園の保育士さん達は朝から緊張の連続だったと推察します。当日まで、何度も何度も指導されたに違いありません。会場一杯の参加者を前にした演技の裏には、並々ならぬ努力があったと思います。子どもから大人までが一体となって一つの事業を盛り上げることの素晴らしさを実感しました。子どもが大きくなったとき、「あの時、みんなで踊ったね、たくさんの人の前でダンスしたよ、ドキドキしたけど、楽しかった。やっぱり砺波はいいよ。」と思うかもしれません。



来年の連絡協議会は、大野町で開催されます。「ブルーヘブン」や「イエライシヤン」というバラは、日本はもとより、世界でも名前が通っています。そのバラの町大野町を全国に知ってもらおう絶好の機会です。その大きな事業を成功させるために、子ども達がどのように関わっていくのか自ら考え、実行していくことができれば、これまでのふるさと教育とはまたひと味違ったふるさと教育になるのでは、と今から一年後を楽しみにしています。

私自身もどのようなおもてなしができるか、模索中です。